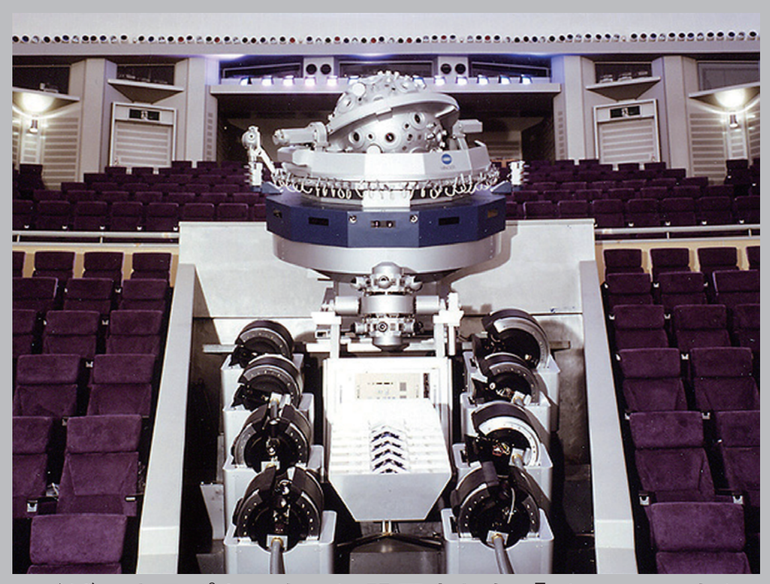
1920
1930
1940
1950
1960
1970
1980
1990
2000
2010
2020

傾斜ドーム

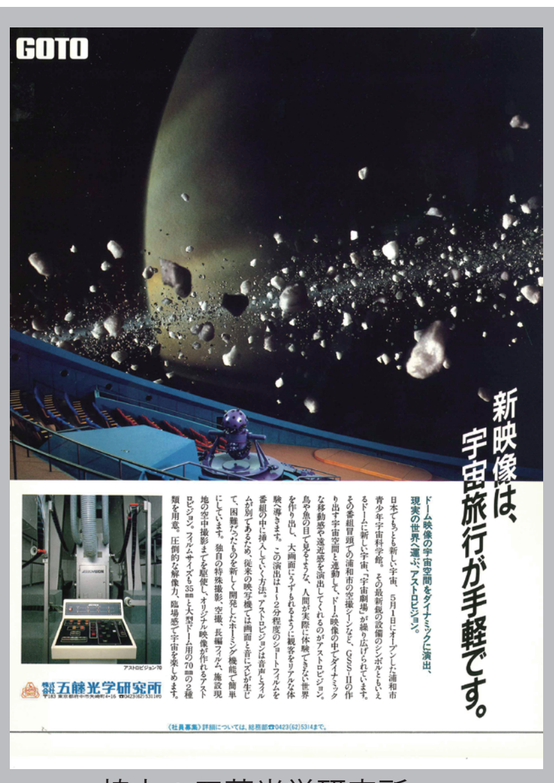
初期のプラネタリウムは水平の床に設置されました。
やがてドームスクリーン用に魚眼レンズを用いた映写機が開発されると、
プラネタリウムと併用できるよう階段状に座席を配置した
傾斜ドームの「スペースシアター」が作られるようになります。
スペースシアターに対応したプラネタリウムでは
恒星と惑星を映す装置を分離し、
それぞれをコンピュータで制御する技術が導入されました。

横浜こども科学館に設置された「GSS」
協力：五藤光学研究所



つくばエキスポセンターに設置された「インフィニウム」
協力：コニカミノルタプラネタリウム

この技術により地球の外で見る星の動きの表現が可能になり、
1984（昭和 59）年に横浜こども科学館 、
1985（昭和 60）年にはつくば科学万博（現つくばエキスポセンター）
で公開され、以降は日本各地に設置されるようになりました。



協力：五藤光学研究所

協力：コニカミノルタプラネタリウム

傾斜型ドームでの映像投映イメージ（当時の広告等）